

## 手作りトイレはバリアフリー

園長 山中 文



少し前、年長さんクラスでトイレをつくっていました。

見てみてください。この趣のあるトイレ！便器には白い陶器を表すために白のテープが入念に巻かれています。トイレットペーパーも設置されています。トイレ本体の縦半分くらいの位置で、段ボールを張り合わせた部分がゆがんでいるのが、少しくたびれたトイレを彷彿とさせますが、なかなかの出来です。

感心してみると、子どもたちが「このトイレにはおぼけが出るんだよ」と教えてくれました。どのように出てくるのかと思っていましたら、しばらくして、担任がそのトイレに入り、子どもたちはニコニコとノックをしはじめました。担任はなかなか出てきません。何度か呼ぶと、ついに中から「呼ぶのは誰だあ…」と低い声とともに出てきて大騒ぎになったのでした。こういったお化け遊びは、何度も人が代わって繰り返されていました。

このトイレ、面白かったのは、よく造りを工夫していたからだけではありません。前面もなかなかだったのです。トイレを閉めたら、前面に、男性マークと女性マークがあり、さらにその隣に、写真ではよく見えませんが、「どなたでも」と書かれているのです。

「考えたねえ、誰でも入れるようにしたんだね」というと、「だって、そういうのあるじゃん」という声が返ってきました。なかなかの観察力です！

AIの発展等で大きく変革している現代、人間には創造力が必要だと言われています。そして、そういう創造力スコアが遊びの経験と関係していることはよく言われていることです。このトイレの遊びの光景を見ても、見たり聞いたりしたことをもとに、仲間と協力したりけんかしたりしながら創り上げていく遊びが、説明して教え込むのとは違う多方向の学びをしていることがよくわかります。

\*この文章は、本園園だより7月号に載せた文章を元にしてしています。

